

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援・放課後等デイサービス 翔はばたき					公表日	令和 8 年 5 月 7 日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	<input type="radio"/>		走ったり、ドッチボールなどをする場合は近くのグラウンドに移動する	運動するにはスペースが狭く感じるので近くのグラウンドで運動する		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	<input type="radio"/>			児発の児童が利用の場合は経験豊かな保育士を増やす		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	<input type="radio"/>			子供の背丈に合わせて階段と訓練室の間の空間を無くす。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	<input type="radio"/>		次亜塩素酸で拭き掃除をして清潔を保っている	生活習慣の基本を重視し遊具の消毒や整理整頓を毎日し児童にも療育の一つとして行っている		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	<input type="radio"/>		部屋を増やした	利用児童の体調の悪い時は新しい静養室で休める。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	<input type="radio"/>		業務前後に必ず申し送りや反省会をしている。	今以上に、スタッフ全員で課題について話し合い、改善していく様努める		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		直接、保護者から意向などを確認している	支援学校や他の関係機関と連携し情報を共有している		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		半年に一回、年に2回ほど、保護者会を行っています	その中で、改善できるような項目であれば努力します		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		保護者、支援センター、学校、病院等、色々な業種との業務連携を図っている	今後、第三者による外部評価を行うように努力します		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	<input type="radio"/>		市内、府内の研修に順番に職員が参加している	虐待などのハラスメント研修または専門的なスキルを養うため色んな研修には参加しています		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	<input type="radio"/>		家庭での様子、学校での様子の聞き取りと、事業所での行動観察の結果を利用している	支援プログラムを作成しているが、その日の利用者の状況に応じて臨機応変に対応している		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	<input type="radio"/>			常に事業所での様子、学校や家庭での様子を聞き取り支援計画書を作成しています。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	<input type="radio"/>			ガイドラインに沿って一人ひとりのニーズに応じて可能な限り具体的な支援項目の設定に努める		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	<input type="radio"/>		個別に配慮している	家族や相談支援員にアドバイスを求めている		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	<input type="radio"/>			家庭での様子、学校での様子を聞き取りと、事業所での行動観察の結果を利用している		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	<input type="radio"/>		できる限り本人や家族の希望に添えるように支援内容を設定している	ガイドラインに沿って一人ひとりのニーズに応じて可能な限り具体的な支援項目の設定に努める		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	<input type="radio"/>		ほぼ毎日協議している	支援目標を共通で理解し支援の改善に活かせるように努めます		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	<input type="radio"/>		外出等もSSTなどを取り入れている	その日の利用者の状況に応じて臨機応変に対応できるようにしている		

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		個別・集団を組み合わせている	他の事業所や学校での活動を考慮し、より細かい支援計画を作成する様努める	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		毎日、送迎の配車・担当者の確認や申し送りを行っている	送迎、支援内容を確認し欠席者の確認をし、伝達事項に漏れがないか確認している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		一日を振り返り日誌を記入しながら情報を共有している	なんでも気づいたことを言い合えるように、ほかの話題なども自由に話せる時間を設けている	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		職員が共有しているグループラインに送り業務日誌や連絡長、支援記録などを共有している。	日誌を見て振り返り、問題点があれば話し合い、支援の改善に努めている	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			成長の発達や、他の環境の変化に応じて柔軟に対応しているが、より良い支援の為、関係機関との連携を一層深めていく様努める	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児発・或いは児童と関わりの深い職員が参加している	サービス担当者会議を通じて担当者間の密な連携と情報交換に努めている	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		連絡体制に留意している。職員は喀痰吸引の第3号研修煮に参加している。	看護師も配置し主治医より指示書を出して頂きそれに沿った支援をしている。看護師がいない日は、研修を受けたスタッフで対応している	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○			関係機関と連携し、情報収集に努める	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		情報や助言を受けるようにしています	保育園や幼稚園入園前の機関などの連携に努める	
	28	(28～30は、センターのみ回答)					
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。					
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。					
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加しているか。					
	31	(31は、事業所のみ回答)					
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○				連携を図りスーパーバイズや助言アドバイスを受ける機会を設けるように努めます
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○			地域の子ども会とは交流し活動をしている	保育所や子ども園、幼稚園との交流や一緒に活動する機会を作ろうと思う	
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			送迎時に発達の状況や課題について共通するようになっています	保護者に送迎時、直接お会いした時やイベント、行事などに参加して頂いた時に伝えている	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○				機会があれば行います。ファシリテーターが中心になり家族支援ペアレントトレーニングの支援を行える様努める	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			契約時、または変更時に説明している。	契約時に書面と口頭で説明している。確認されればその都度行っている	
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○				定期的に確認する様努めている	
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○				支援計画の内容を確認し保護者に説明して必ず同意を得る。状況の変化等に応じて変更できることを丁寧に説明する様に努める	
38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			個別に行っている	協力できる範囲で助言などを行っている	

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		こちらのイベントにも参加してもらえる様、年に2回は招待している	父母の会は始めている
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			苦情や相談があれば早目の対応ができる様職員間で報告、連絡、相談体制をとっている
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		会報等、イベントや行事の際にSNSで発信し閲覧してもらっている。	日々の様子を写真や動画で伝えていきます
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		定期的に確認する様努めている	個人情報の取り扱いには行っている十分留意しながら
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		それぞれの立場になり考えを共有している	利用者、保護者とのコミュニケーションを大切にして支援の充実を図る
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		こちらのイベントにも参加してもらえる様、年に2回は招待している	より開かれた事業運営を図るよう努めます
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		職員にはすぐにチェックできるようにわかりやすい場所に置き周知してもらっている。	マニュアル類はすべて解りやすいようにまとめ、誰もが見やすいようにホームページなどに掲載するように努めます。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		避難経路を確認しながら散歩している	消防署などに助言してもらいながら指定の避難場所へ避難訓練を定期的に行っている。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		初回の契約の時、また面談の時に聞き取りをしている	定期的に更新し、その都度確認している
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		エビペンを所持している児童もいるため、看護師とともに研修している	該当者には医師の指示と家族様からの指示通りに対応します。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			安全管理に必要な研修や訓練と、安全管理が十分にされた中ででの支援を行えるように努めます。
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			より良い安全確保と安全計画に基づく取組内容と家族様との連携が図れるように努めます
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			最大の注意を払い二度と起こさないようにするにはどうしたら良いのか、反省会をしている。事例を文書化して記録にのこしている
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		1年に2回は研修会に参加している。	あらゆるところから情報収集・共有し、一人一人の障がいの特性を理解し人権に関する意識の向上を図り研修を受けるように努めます	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○			やむを得ずという場合は、保護者との連携を図り身体拘束についての理解を深めた上で状況説明をし了解を得て、その旨を書類に記載しておく	